令和8年9月19日（土）
大崎タイムス掲載

建設関連事業所で実習

古川工高土木情報科2年生 進路への意識高める

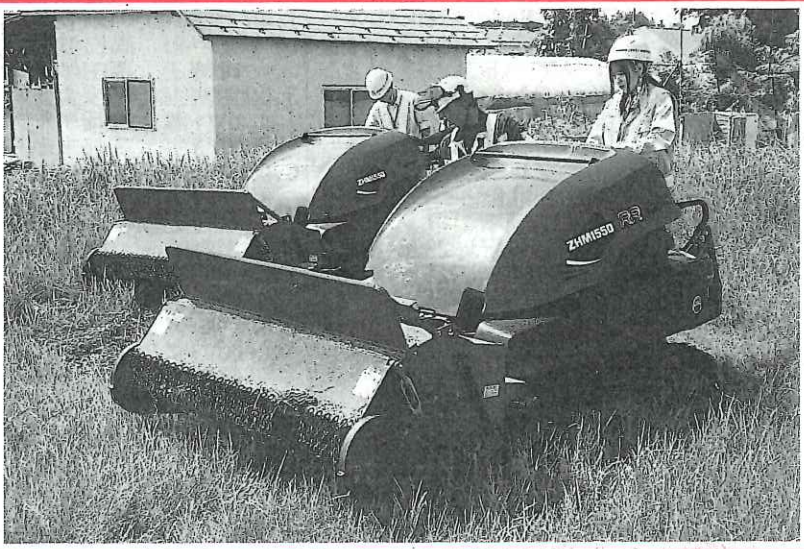
古川工業高土木情報科2年生39人の現場実習が9日から11日まで、大崎地方の建設関連事業所10カ所で行われた。生徒たちは小型重機の操作や除草、測量などを体験し、将来の進路選択に対する意識を高めた。

現場実習は、官公庁や地元企業の協力を得て毎年この時期に実施しており、ことしは計10団体に生徒を受け入れてもらった。このうち県建設業協会大崎支部会員は6社で、丸か建設（本社・加美町、佐々木一暢社長）では4人が実習を行った。

初日は工事現場を見学し、掘削機などの使い方を研修。2日目は鳴瀬川右岸堤防の除草を体験。生徒たちは乗用草刈り機に乗り込み、社員の指導を受けながら慎重にレバーを操作して草を刈り進めた。

小島日向太さん（16）は「丁寧に指導してもらい、良い経験になった。これからの就職活動に生かしたい」と話していた。

実習を担当した同社の高橋翔さんは「建設業の若手人材不足が叫ばれる中、高校生に直接業界を紹介できる貴重な機会。実習を通じて少しでも興味を持ってもらえれば」と期待していた。



乗用草刈り機を体験する生徒